
A lenda da moura Salúquia

について

ムーアの娘サルキアの伝説は、初代ポルトガル王アフォンソ・エンリケスをはじめとするイベリア半島のキリスト教徒の王たちが、モウラ（Moura）一帯を支配するムーア人から何とかこの地域を自分たちの手に取り戻そうと力を尽くしていた頃にさかのぼります。

イスラム教徒を治めるアブー・ハッサンの娘であったサルキアは、城の若い指揮官と婚約していました。そして塔の上に立って、ポルトガル人との戦いに出征した婚約者の到着を待っていました。しかし、この街に進行し占領する準備をしていたキリスト教徒の軍勢は、この若いムーア人指揮官を待ち伏せし、その同伴者たちもろとも殺害してしまいました。そしてキリスト教徒たちは敵の衣服に着替えると、城内の者たちの目をくらませて扉を開けさせ、城に入ることに成功したのです。

騙されたことに気付いた美しいサルキアは、とらえられてキリスト教徒の奴隷となるより自ら命を絶つことを選び、塔から身を投げました。この伝説は、この街の名であるモウラ（「ムーアの娘」という意味）の由来と言われています。